

シンガポールの学校生活について

紺野陽愛

〈はじめに〉

学校生活は国によって大きな違いが生まれ、その国の文化やマナーの違いが影響されと思います。私達にとって学校生活は自分に大きな影響を与え、たくさんの思い出ができる場所だと感じるため、研修テーマを学校生活にしました。

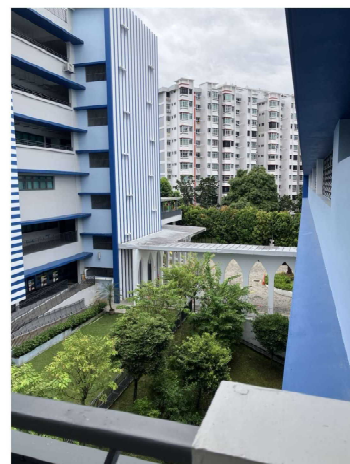
シンガポールに行く前には、シンガポールの学校生活の大まかな制度について調べました。小学校や中学校は日本と同じく、小学校は6年間、中学校は3年間だそうです。他にも制服があったり、部活動があるということは日本と同じでした。しかし、シンガポールでは給食がないためお弁当を持参したり、食堂で食べるということが日本との違いでした。

〈シンガポールでの調査〉

私はバディーが通っているCHIJ St. Nicholas Girls' Schoolという女子校に3日間体験入学をしました。

1. 校舎

シンガポールの学校に体験入学し、校舎は日本と比べてとても広いと感じました。学校に入ってから教室までが遠く、大変でした。また、美術室やコンピューター室などの特別教室に移動する際もどこまで歩くのかわからないほど広かったです。日本と違うところは広さだけではなく、校舎の造りにも大きな違いがありました。廊下に出ると壁ではなく柵になっており、とても開放的でした。そのため、風通しがよく、涼しかったです。学校内には自然がたくさんあり、屋上のようなところにはたくさんの植物が育てられていました。さらに、校舎の横には大きな池もありました。また、上靴などがなく、校舎内は外靴のままでした。しかし、靴の色は指定されているため、みんな白い靴を履いていました。



2. 授業

教科は英語や歴史、美術など日本と似たようなものが多かったです。しかし、中国語や cultural intelligenceという目を閉じて文化について考える授業など日本にはない授業も

ありました。授業中は日本と比べて比較的自由に、友達と話したりお菓子を食べている人もいました。私のバディーはアイパッドでゲームをしたりもしていました。

3. 食堂

給食がないため、学校には食堂がありました。そこにはシンガポールで人気のチキンライスやケバブなども売っていました。また、カレーうどんや茶碗蒸しなど日本の料理も売っていました。食堂では10時半から11時15分までの休憩時間にスナックやタピオカのような飲み物を飲み、軽食を取りました。

4. ナショナル・デー

8月9日はシンガポールの独立記念日のため、前日の8日には授業がなく、グラウンドのようなところで1日中祝いました。独立記念日に行われる行進やダンスの発表を見たり、歌ったりしました。また、終わったあとには友達と集まって、写真を撮ったりなど自由な1日でした。さらに、普段は制服で登校していますが、この日は赤いTシャツで服装も自由でした。

日本とは違う、独立記念日の祝い方が自分の国を大切にしているように感じて素敵な文化だと思いました。



〈まとめ〉

シンガポールで体験入学をし、日本にはない文化を経験することができました。教科や授業内容など日本と似ていることもあったけれど、授業態度や休み時間の過ごし方、校舎の広さなどは日本と大きく異なる点だと感じました。クラスメイト全員が仲良く、明るいのがシンガポール人の素敵なおところだと思いました。体験入学を通して、実際に行かないとわからない学校生活の魅力や特徴、雰囲気を感じることができました。

〈おわりに〉



2週間家族と離れて生活することは初めてだったため、出発前は不安なことや心配なこともたくさんありました。しかし、ホストファミリーが温かく迎えてくれ、貴重な経験をすることができました。私はナショナルデーのリハーサルを見に行ったときに日本とは違うシンガポールの素晴らしさを感じました。シンガポールの人々が民族や文化をお互いに理解し合い、共存しているのを見て、言葉がうまく伝わらなくても理解し合えば誰とでも仲良くなることができるということを学びました。この経験から、どんな違いがあっても理解すれば何事も乗り越えられるということを大切にしていきたいです。